

令和4年度 第1回 市川市博物館協議会 会議録

日 時：令和4年8月9日（水）午後2時から

場 所：市立市川歴史博物館 2階 講堂

出席者：協議会委員

白井 久美子、櫻庭 秀喜、大橋 弥生、富田 勇人、滝口 正哉、池谷 佳子
片岡 玲子、藤村 淳、山田 耕生（順不同）

生涯学習部長 永田 治 考古博物館長 杉山 元明

考古博物館： 主幹 堀 邦光 主査 小川 健太郎

学芸員 領塚 正浩 松本 太郎 山路 直充

歴史博物館： 学芸員 山岸 未来

自然博物館： 館長 久保 賢二 学芸員 金子 謙一

傍聴者：なし

館長： 本日は、お忙しい中、お集りくださりありがとうございます。
はじめに、退任された方及び新任された方のご紹介をさせていただきます。
退任された委員は、清田博之委員、町田実委員、松丸陽輔委員、富川俊雄委員。
次に、新任された委員は、三瀬敬委員、大橋弥生委員、富田勇人委員、富川博喜委員の4名となります。
それでは、永田生涯学習部長から、新たに博物館協議会委員となりました皆様に委嘱状を自席にて交付させていただきます。

【永田生涯学習部長より新委員へ辞令交付】

館長： 市川市教育委員会を代表いたしまして、永田生涯学習部長からご挨拶申し上げます。

【永田生涯学習部長挨拶】

館長： ありがとうございました。
なお、本日、欠席されました三瀬委員、富川委員におかれましては、後日、本日の資料とともに、委嘱状を郵送させていただきます。
これをもちまして、委嘱状交付式を終了いたします。
それでは、開会に先立ちまして、お手元に配布させていただきました資料の確認をさせていただきます。

【配布資料の確認】

館長 : 今回は、久方ぶりの対面による会議でございますので、各委員の皆様と事務局で、簡単に自己紹介をしたいと思います。

【各委員及び事務局挨拶】

館長 : 続きまして、白井委員長よりご挨拶をいただきたいと思います。
白井委員長、よろしくお願いします。

【白井委員長挨拶】

館長 : ありがとうございました。
それでは、市川市立博物館の設置及び管理に関する条例第12条第1項の規定により、協議会の会議の長は委員長が行うこととされておりますので、これより先は白井委員長に議事運営をお願いします。

白井委員長 : 開会にあたり15名中9名の委員が出席されておりますので、市川市立博物館の設置及び管理に関する条例第12条第2項の会議開催規定、委員定数の過半数以上の出席という条件を満たしていますことから、この会議は成立しています。
次に、会議の公開についてですが、市川市では協議会等の会議の公開・非公開の決定について、議事に先立ち決定することになっております。
本日の会議については公開とすることで皆さんよろしいでしょうか。
異議がないようなので、本日の会議は「公開」と決定します。
では、傍聴を希望される方はいらっしゃいますか。

館長 : 傍聴される方はおりません。

白井委員長 : これより、令和4年度 第1回 市川市博物館協議会を開催します。
本日の内容は、報告事項3件、協議事項1件、その他についてです。
それでは、令和3年度の事業実施状況に対する自己評価について、事務局より説明をお願いいたします。

【考古・歴史・自然博物館学芸員が令和3年度の実績を説明】

白井委員長 : ありがとうございました。次に総合評価の説明をお願いします。

堀主幹 : 3館の総合評価について報告させていただきます。
お手元に配布しました、会議資料1ページ目「令和3年度事業実施状況に対する外部評価」をご覧ください。
この評価につきましては、先ほど各館の担当者が令和3年度の事業実施状況に対して自己評価した内容を総合的にまとめたものです。

まず、1点目「収集・保管及び調査研究事業」についてです。
成果として、考古博物館では、調査や報告書作成、資料管理などが随時実施できたこと。歴史博物館では、収蔵事業の整理が進んだほか、図書の整理や研究会等への参加も年間を通して実施できたことが挙げられます。
また、課題としまして、自然博物館で新規データの整理に追われ、スライドフィルムのデジタル化が進行しなかったことなどが挙げられ、フィルムの劣化が懸念されるため、なるべく速やかにデジタル化を進めていきたいと考えております。
以上のことから、総合評価はBとしました。

2点目「展示事業」についてです。
成果として、3館ともに新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行いながら、通年を通して開館し、企画展等実施可能な範囲で展示開催ができたことが挙げられます。
なお、今後もしばらくコロナ禍に対応した内容で展示事業を行っていく必要があると考えております。以上のことから、総合評価はBとしました。

3点目「市民向けの教育普及事業」についてです。
成果として、3館ともにコロナ禍の市の対応方針に従い、事業がほとんどできませんでした。以上のことから、総合自己評価はCとしました。
なお、今後の市の方針にもよりますが、新型コロナウイルス感染状況を見極めながら、少しずつですが実施可能な範囲で、事業再開に向けて進んでいきたいと考えています。

4点目、「学校関連の教育普及事業」についてです。
成果として、3館ともに小学校等へ出張する事業や縮小日程の館務実習などコロナ禍に対応した活動を実施しました。
以上のことから、総合自己評価はBとしました。
なお、今後も各学校から要請があれば適宜対応してまいります。

5点目、「地域連携の教育普及事業」についてです。
成果として、考古・歴史博物館では、市川市博物館友の会や外部からの依頼により見学会や講演の講師として協力したことなどが挙げられます。

自然博物館は、コロナ禍で全ての事業が未実施だったため評価ができませんでした。以上のことから、総合自己評価はBとしました。

今後も各公民館や市民団体からの要請があれば適宜対応してまいります。

最後に6点目、「博物館の運営事業」についてです。

成果として、3館ともに例年通り「考古博物館だより」や「自然博物館だより」を制作のうえ、行事予定や事業研究実績等を周知し、また、必要な施設維持管理にも努めたことが挙げられます。

課題としては、博物館の老朽化が進んでおります。

施設の適正な維持管理が求められますので、必要な経費をしっかりと確保し、博物館の事業等についても積極的にアピールしていきます。また、自然博物館の年報は、毎年必ず発行して参ります。以上のことから、総合自己評価はBとしました。

説明については、以上でございます。

白井委員長： ありがとうございます。

総合評価については、後ほど協議します。

それでは、各館で説明がありました「令和3年度 事業実施状況」について委員の皆様ご意見などがございますか。

藤村委員： 出張授業の情報は、どのように学校に伝えていますか。

館長： 学校への情報提供は、実施するタイミングに合わせて「校長会」でアナウンスしております。あとは、個別に学校から依頼を受け行っています。

白井委員長： 授業の方法は、どのように行っていますか。

領塚学芸員： 考古博物館では、大きなモニターが各クラスに配置されていますので、パソコンと連動してパワーポイントを使用し行っています。

また、縄文時代の服を復元したものを着て古代の道具を持って説明しながら授業を行っています。時間がある学校では、体験的なものも授業に組み入れています。

金子学芸員： 自然博物館では、校庭を子供たちと一緒に歩いて自然観察します。

また、ハイビジョンの動画を教室で見てもらっています。

生き物のパネルを10枚ほど持参して、それを掲げながら説明をします。

授業終了後、学習の継続に役立つようにパネルは置いていきます。

滝口委員：資料整理のデータベース化は非常に地味で、期間と労力がかかると思います。学芸員の方たち以外の方も何かしていただいているのでしょうか。

山岸学芸員：歴史博物館は、古文書整理ボランティア2名の方に目録の入力をお願いしております。

金子学芸員：自然博物館は、収蔵庫資料・地質資料・昆虫標本の各整理をしていただいております。また、図書関係では、配架、タイトル・著書などのデータ入力もお願いしております。

領塚学芸員：考古博物館は、会計年度任用職員に調査報告書及び展示図録などを台帳に記載してもらっています。

片岡委員：要望ですが、縄文体験授業の時、説明される方が縄文時代の復元衣装を着て教室の中に入られたので子供たちの顔つきとか、本物の土器などを触れた時の目つきとか輝いていましたので、今後も体験学習の継続をお願いします。

白井委員長：ありがとうございました。

次に、残り2件の報告事項 令和4年度「館別事業計画について」「企画展 遺伝子からみた古代のイヌについて」事務局より説明をお願いします。

【考古・歴史・自然博物館学芸員が令和4年度の事業計画を説明】

【山路学芸員が令和4年度の企画展を説明】

白井委員長：ありがとうございました。質問・意見はございますか。

ないようなので、2番目の協議事項へ移ります。

令和3年度 事業実施状況の外部評価の表を見ていただき館別自己評価と総合評価に対して委員の皆様から意見をいただきたいと思います。

櫻庭委員：「地域連携の教育普及事業」ですが、歴史博物館では友の会の展示や資料調査活動に協力したことでB評価としてありますが、考古博物館同様に十分に活動されていたのでA評価でよろしいかと思います。

また、「収集・保管及び調査研究事業」ですが自然博物館では、データベース化において、まだまだ遠いゴールを見据えてのC評価だとのことですが、年度ごとの評価として考えれば少しずつ進んでいますのでB評価でよいと思います。

そのうえで総合評価もBと考えます。

「運営事業」も自然博物館はC評価ですが、全体の内容をみるとB評価にあたいするものと考え、総合評価もAでよろしいかと思えます。

白井委員長： ありがとうございます。

富田委員から賛同しますとご意見がありました。

他の委員はいかがでしょうか。異議がないため

「収集・保管及び調査研究事業」は3館B評価、総合評価もB、

「地域連携の教育普及事業」は考古・歴史博物館をA評価、自然博物館は活動できなく対象外とし、総合評価はA、

「運営事業」は考古・歴史博物館をA評価、自然博物館をB評価、総合評価はAとします。

山田委員： 「展示事業」ですが、報告内容と評価の現状を鑑み考古・歴史博物館はA評価でよいかと思えます。

白井委員長： 自然博物館についてはいかがでしょうか。

先ほどに令和3年度 事業実施状況の説明の時にWeb上での活用に一番対応しているように感じました。様々な活動の一つに入るのはと思います。

櫻庭委員： 通常であれば本当は展示ですが、余りにもコロナ禍で制約がある中、かなり努力されていると考えますのでA評価でよいと思えます。

白井委員長： 異議がないようなので、「展示事業」は3館A評価、総合評価もAとします。

次に「市民向けの教育普及事業」ですが、コロナ禍の影響で実施できなかったものがほとんどだと思えます。富田委員から評価できないのではということで、3館横バーでよいのではと意見がありました。

滝口委員： 市民との繋がりを維持するという意味で、何かもっとできなかったのかなと思います。評価基準を鑑み改善の余地があると考え3館C評価でよいと思えます。

櫻庭委員： 博物館のホームページは充実されています。

友の会へリンクもされています。市民向けに発信されていますので、もっと評価してよいと思えます。

山岸学芸員： 歴史博物館は、資料などの紹介をSNSを用いてツイッターなどで日々発信しております。

山田委員 : 歴史博物館は、資料紹介などSNSを用いて発信したと項目に追加したうえで、B評価と判断するのがよいと思います。

白井委員長 : 考古博物館も「ボランティア研修B」「夏休みスタンプラリーA」と評価されておりますので、全体でB評価でよいと思います。

金子学芸員 : 自然博物館では、長田谷津の四季の様子を毎月動画で撮影して、YouTubeにUpしてWeb上で疑似体験できるような取り組みをしています。

白井委員長 : 多くの意見ありがとうございます。
それでは、3館ともに「市民向けの教育普及事業」をB評価とし、総合評価もBとします。
最後に「学校関連の教育普及事業」についてです。
異議がなければ、限られた制約の中でも積極的に実施されたということで、記載の通り3館ともにB評価、総合評価もBとします。
再度確認します。

「収集・保管及び調査研究事業」3館B評価、総合評価B

「展示事業」3館A評価、総合評価A

「市民向けの教育普及事業」3館B評価、総合評価B

「学校関連の教育普及事業」3館B評価、総合評価B

「地域連携の教育普及事業」考古・歴史博物館A評価・自然博物館評価無、
総合評価A

「運営事業」考古・歴史博物館A評価・自然博物館B評価、総合評価A
とします。

私から質問よろしいでしょうか。3館の構成員について人員が非常に不足している状況の中、来年度以降の採用の見込みはあるのでしょうか。

館長 : 来年度以降の採用の見通しは、現段階ではありません。

白井委員長 : すぐに改善するのは難しいと思います。市の方針もありますが、職員の充実は目標に掲げていただければと思います。
また、建物の老朽化についても考古博物館が築50年、歴史博物館も築40年となっていますので、早急な改修計画を併せてお願いします。
また、資料整理のデータベース化の形式統一を、3館で作成方法とその公開の仕方を協議する機会を設けてみてはいかがでしょうかと思います。

櫻庭委員 : 学芸員の処遇の問題ですが、できれば会計年度任用職員の方をそのまま正規職員として採用していただければ事業の継続性の問題に支障がでないのではと思います。

白井委員長 : それでは、その他 次回協議会（開催日程等）についてです。
事務局より説明をお願いします。

館長 : 次回は、来年3月頃を予定しております。
詳細は決まり次第委員の皆様へお伝えします。

白井委員長 : これをもちまして、協議会を終了させていただきます。
ご協力ありがとうございました、